

すべての人々が健康で生き生きと暮らせる社会の実現に向けて
「働く人の心身の健康やウェルビーイングに資するデータベース構築」を開始
～麻布台ヒルズの入居企業と協力し、街を挙げた大規模調査を実施～

学校法人慶應義塾(東京都港区、塾長:伊藤公平)と森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長:辻 慎吾)は、2021年4月に開設した「慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座(特任教授:岸本泰士郎)」の一環として、「働く人の心身の健康やウェルビーイングに資するデータベース構築(以下「本研究」)」を開始しました。

我が国の働く人々の健康課題は、人口減少・少子高齢化に伴う労働者人口構成の変化や、デジタル化による産業構造、個人の価値観、ライフスタイル等の変化により、複雑化・多様化しています。このような環境下において、本研究では、慶應義塾と森ビルの緊密な連携のもと、麻布台ヒルズを始め、都心で働くオフィスワーカーを対象に、心理的・身体的な健康情報や、生活習慣や働き方等に関する情報を長期にわたって収集。それらの情報をデータベース化し、健康づくりに関する社会的な提言につなげるとともに、新たなヘルスケアサービスの創出にも活用するものです。

予防医療とウェルネスをテーマに慶應義塾と森ビルが協働

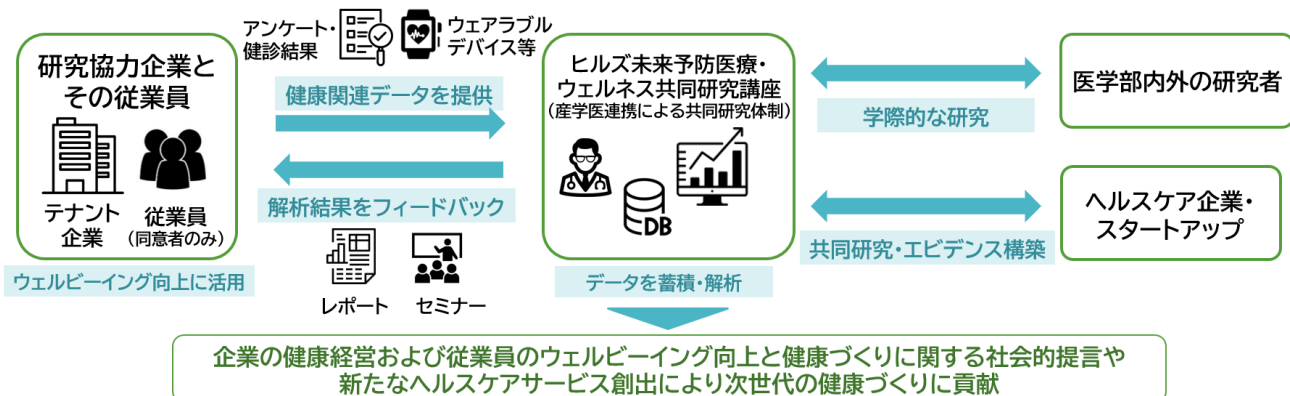
慶應義塾と森ビルは、あらゆる人たちが生涯にわたり、ウェルビーイングを実現できる社会を目指して、2021年4月に「慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」を開設しました。本共同研究講座は、麻布台ヒルズ内の慶應義塾大学予防医療センターと連携し、先進的な予防医療に関連する研究開発を行うとともに、その研究成果を社会に還元することを目指しており、本研究はその研究活動の一環として実施します。

テナント企業の健康経営促進や新たなヘルスケアサービスの創出に貢献

本研究では、調査で構築するデータベースを用い、都心で働くオフィスワーカーの健康課題を把握し、働く世代の健康づくりに関する社会的な提言や、ヘルスケアテクノロジーの開発に活用します。

本年度、麻布台ヒルズの入居企業を中心とした24社の協力のもと調査を開始しました。次年度以降は調査規模を拡大し、最終的には都心で働くオフィスワーカー約1万人を対象とすることを目指します。研究協力者は、年に1回、社会経済的因子、ワーク・エンゲージメントやウェルビーイングの指標、心理的・身体的な健康情報に関するウェブアンケート調査に回答するとともに、定期健康診断の結果(データ)を提供します。さらに、一部の協力者からは、最新のウェアラブルデバイスを用いた活動、睡眠、血糖、血圧などのデータも収集し、様々なデータが紐づけられたデータベースを構築します。

こうした研究活動を通じ、慶應義塾と森ビルは、麻布台ヒルズを健康づくりのモデル地区と位置づけ、構築したデータベースの活用を通じてテナント企業の健康経営促進や、健康づくりに関する社会的提言、産学連携による新たなヘルスケアサービスの創出を行い、社会課題の解決に役立てます。



慶應義塾と森ビルは、50年先、100年先の健康長寿社会の未来を見据え、すべての人々が健康で生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、共に取り組んでまいります。

「働く人々の心身の健康・ウェルビーイング向上を目指した調査」の概要 (研究課題名:働く人の心身の健康やウェルビーイングに資するデータベース構築)

■目的:

都心で働く人々が抱える心身の健康課題の抽出、及び課題に応じたソリューションの開発・街への実装。

■調査参加者:

麻布台ヒルズ入居企業およびその関係会社(合計24社)の従業員

■調査内容:

ウェブアンケートと定期健康診断結果を用いて、参加者から心理的・身体的な健康情報や生活習慣・働き方等に関するデータを年に1回収集し、経年変化を確認できる形でデータを蓄積。都心で働くオフィスワーカーが抱える心理的・身体的な健康課題を同定するとともに、心理的健康と身体的健康の関連性やそれらと働き方などの環境因子との関連性を横断的・縦断的に解析する。

① ウェブアンケート

働き方や休み方、女性特有の健康課題、メンタルヘルスやウェルビーイングに関する80項目のアンケートに回答

② 定期健康診断結果

身体の状態を表す医学的なデータとして、定期健康診断の結果を提出

■調査実施体制:

研究機関

○代表機関:

慶應義塾大学

【役割】研究全体の指揮・マネジメント、研究計画の策定、調査参加者の募集、データの収集・解析

○研究分担機関:

森ビル株式会社

【役割】研究計画の策定、調査参加者の募集、データ(匿名加工情報)の解析

医療法人社団なかよし会

【役割】定期健康診断結果のデータ収集

研究者

○研究責任者:



岸本 泰士郎

医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座 特任教授

専門: 精神・神経科学、行動科学、医療のデジタル化

【コメント】

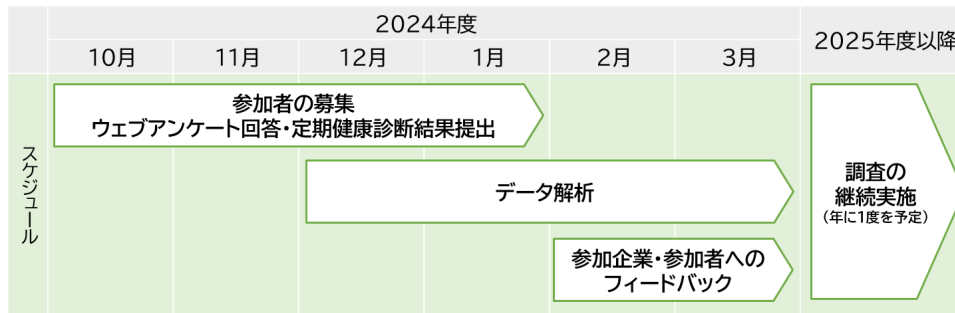
本研究を通じて構築されるデータベースは、長年にわたってデータ収集を行うことを想定しており、コホート調査としての性質も有します。コホート調査は、多くの場合、人口流入の少ない地域で行われますが、本研究では都心での調査にチャレンジします。働き手が不足し、労働世代への負担が増す中、労働力が集中する都心での調査が大切だと考えているためです。この度、共通の問題意識や志を有する、たくさんのお客様の協力を得ることで、この研究を開始することができました。研究を通じて得られる成果を還元し、心身の健康が育まれるコミュニティの構築を目指します。

○研究分担者:

武林 亨(医学部衛生学公衆衛生学教室教授、専門:公衆衛生・予防医学)、山本 勲(商学部教授、経済学部経済研究所パネルデータ設計・解析センター長、専門:労働経済学)、島津 明人(総合政策学部教授、専門:産業保健心理学)、飯田 美穂(医学部衛生学公衆衛生学教室専任講師、専門:婦人科・女性の健康)など

■2024年度のスケジュール:

2024年 10月～ 2025年 1月 参加者募集、ウェブアンケート回答・定期健康診断結果提出
 2024年 12月～ 2025年 3月 データ解析、参加企業・参加者へのフィードバック
 2025年度以降 本研究の継続実施



調査参加企業について

●調査参加企業:

本研究の趣旨に賛同し、参加者の募集に協力する麻布台ヒルズ入居企業とその関係会社 合計24社

○主な参加企業

EQTパートナーズジャパン株式会社※、エムディー株式会社、KMD株式会社、株式会社コトラ、株式会社SHIFT※、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、株式会社プロジェクトホールディングス、メルク株式会社※、森ビル株式会社（五十音順）

※慶應義塾大学医学部倫理委員会による審査を経て正式に参加が決定

●調査参加企業のコメント:

株式会社SHIFT 上席執行役員 CHRO 菅原 要介

SHIFTはIT業界の総合サービス企業として、グループ全体で約1.4万人の従業員と共に、事業成長と企業価値向上に努めています。SHIFTで働く従業員は共に働く仲間であると同時に、企業の重要な成長ドライバーであると捉え、人的資本経営を推し進めてきました。その中で、現在入居する麻布台ヒルズを単なる設備投資ではなく人的資本投資であると位置づけ、全ての従業員がいきいきと働ける職場を目指して【健康経営×オフィス】の取り組みを推進してきました。本調査を通じて、自社の数々の取り組み成果を形式知化し、今後の組織変化に応じた最適な施策を打ち出せることを期待すると同時に、社会全体へのウェルビーイングの浸透に貢献できれば幸いです。

日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社 健康管理室

社員の健康増進は企業の重要な課題と捉えています。今回の研究が企業の健康経営に有益な研究となり、この研究で明らかになった課題に対するソリューションが展開されることで学術の発展のみならず、企業の健康経営や社会全体の心身の健康、ウェルビーイングの向上に貢献することを期待しています。

【本件に関するお問合せ先】

<共同研究講座に関するお問い合わせ>

慶應義塾大学医学部 ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座
 特任教授 岸本 泰士郎(きしもと たいしろう)
 TEL:03-5786-0006

<慶應義塾大学医学部に関するお問い合わせ>

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課 飯塚・岸
 TEL:03-5363-3611 FAX:03-5363-3612 E-mail:med-koho@adst.keio.ac.jp

<麻布台ヒルズに関するお問い合わせ>

森ビル株式会社 広報室
 TEL : 03-6406-6606 E-mail : koho@mori.co.jp

【参考情報①】ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座について

慶應義塾と森ビルは、2021年3月に、麻布台ヒルズへの「慶應義塾大学予防医療センター」拡張移転および「ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」の開講に関する基本協定を締結しました。本研究は、「ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」の一環として実施されます。

研究課題：「新しいアーバンライフのモデル創出に資するウェルネス・ウェルビーイング研究」

講座主任：慶應義塾大学医学部長 金井隆典

研究期間：2021年4月1日～2026年3月31日（5年間）

設置目的：「未来予防医療」「ウェルネス・ウェルビーイングにつながる働き方」「ダイバーシティ・ヘルス」をキーワードに、慶應義塾大学病院予防医療センターと協働し、(1)個別化予防医療を実現するための健康診断・健康支援に関する研究、(2)ウェルネス・ウェルビーイングを実現する働き方、経営ならびにオフィス・街区の環境に関する研究、(3)これらを実現するデジタルプラットフォームとデータ技術に関する研究を、統合的に推進する。共同研究講座の設置目的に基づき、幅広い分野からなる学際的で実践的な教育を、産学連携により行う。また、共同研究講座の研究、教育活動を通し、新しい形の産学協働の推進力となる人材の育成を推進する。

【参考情報②】麻布台ヒルズについて

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。約8.1haもの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約6,000㎡の中央広場を含む緑化面積は約24,000㎡に上ります。

延床面積約861,700㎡、オフィス貸室面積約214,500㎡、住戸数約1,400戸、「森JPタワー」の高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、年間来街者数約3,000万人で、そのスケールとインパクトは六本木ヒルズに匹敵します。また、国際水準のオフィスや住宅、商業施設に加え、アマンとのパートナーシップによるホテル



ブランドレッドレジデンス「アマンレジデンス 東京」や、世界初のアマンの姉妹ブランド「ジャヌ」のホテルのほか、50カ国以上、約700人の生徒が在籍する都心最大規模のインターナショナルスクール「ブリティッシュ・スクール・イン東京」、お台場で人気を博した「森ビル デジタルアート ミュージアム: チームラボボーダレス」など、豊かな都市生活を実現する多彩な機能も備え、緑豊かな街全体が我が家となり、仕事場となり、学びや遊びの場となります。「麻布台ヒルズ」は、当社が理想とする「都市の中の都市(コンパクトシティ)」であり、これまでのヒルズで培ったすべてを注ぎ込んだ「ヒルズの未来形」です。

「麻布台ヒルズ」の開発コンセプトは「Modern Urban Village」。「緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような街」です。そして、「Modern Urban Village」を支えるふたつの柱は「Green」と「Wellness」。圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で多様な人々が集い、より人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指します。

「麻布台ヒルズ」では、高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000㎡の中央広場を含む約24,000㎡の緑地を確保。四季ごとに表情を変える約320種もの多様な植栽が広がる街全体で、緑と水がつながり、自然あふれる憩いの場を創出しています。

また、慶應義塾と基本協定を締結し、予防医療センターを核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといったさまざまな施設を連携させることで、この街で住み、働くことのすべてが「ウェルネス」に繋がる仕組みの構築を目指しています。